

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371600640
法人名	有限会社 アメニティホーム
事業所名	アメニティホーム塩釜
訪問調査日	平成21年2月26日
評価確定日	平成21年3月26日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2371600640		
法人名	有限会社 アメニティホーム		
事業所名	アメニティホーム塩釜		
所在地	名古屋市天白区元八事321番地 (電話) 052-861-2230		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月26日

【情報提供票より】(平成21年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年4月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	17 人	常勤6人, 非常勤 11人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月7日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	7名	要介護2	5名			
要介護3	4名	要介護4	2名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	82.16歳	最低	66歳	最高	92歳
協力医療機関名	ばん内科クリニック・林皮膚科・中村歯科・平針眼科					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはデイサービスセンターを併設しており、行事に参加したり設備の相互利用をしている。町内会に加入し、ホームの行事案内、ホーム通信などを回覧板で回してもらい地域の方の参加を呼びかけている。ホームでは「なんでも介護相談」を開設しており、地域の方の相談にのれるようにと考えている。医療連携体制加算を受けており、24時間対応可能となっており、家族の安心につながっている。日々の健康管理は看護師が行なっている。火災や災害に備え防災訓練を年2回実施し入居者の安全に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の改善点の検討会は行われていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は今回の評価を行うことで今までのことを振り返り反省し、見直すきっかけとなった。評価を行う前に管理者からは記入方法の説明はあったが評価の意義については説明はなかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3カ月に1度を予定していたが老人会、民生委員、町内会会長、消防団、ご近所等声かけして、参加をよびかけているが、高齢であったり、参加していただけていない。ホームの5周年記念の行事を地域の方に案内は出したが参加はされていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会はないが、こまめに意見、要望を聴取している。家族の訪問時には職員に直接要望を伝えてくれている。職員間での情報の共有のため、連絡帳にて、各自把握している。意見、不満、苦情等、発生したら、直ちに管理者に報告し、家族に説明、理解してもらえるよう配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会し、毎月の廃品回収等の町内行事に参加している。地域の夏祭り、運動会など参加はできていない。入居者が買い物や散歩に出かけると、地域の方との挨拶を心がけている。地域の役員の方には事業所の行事案内は声かけをしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の人格（心）を考え、生き甲斐のある、明るく快適な毎日をご過ごして頂く生活の場とする」として理念を掲げている。入居者本位のその人らしい暮らしを続けていけるよう支援している。日々の生活の中でも生き甲斐を見つけていただけよう、役割などを持って頂き、入居者本位の支援をしている。		法改正にともない地域密着型ホームとしてホームを中心に入居者が、地域の住民として地域の周囲の人々と助け合い、地域に貢献できるような存在であるようなイメージを盛り込んだ理念の見直しを検討されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々毎朝の申し送り時に唱和して職員自ら理念を確認している。2階出入り口、フロアに掲示してあり、職員にいつでも目につき、確認できるようしている。新入社員はまず、現場に入ってもらい、入居者と直接ふれ合いその上で理念を把握してもらっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、毎月の廃品回収等の町内行事に参加している。地域の夏祭り、運動会など参加はできていない。入居者が買い物や散歩に出かけると、地域の方との挨拶を心がけている。地域の役員の方には事業所の行事案内は声かけをしている。		地域性の一つの特徴として、中々交流がとりにくいようだが、更にグループホームの理解が得られるよう、説明会、行事案内等、地域の方々に溶け込めるよう、事業所から、色々と発信され、交流を深められるよう、期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は今回の評価を行うことで今までのことを振り返り反省し、見直すきっかけとなった。評価を行う前に管理者からは記入方法の説明はあったが評価の意義については説明はなかった。昨年度の改善点の検討会は行われていないが、口頭では説明されている。		毎年評価をおこなうことで改善点の見直しを検討されることを期待したい。副施設長、管理者、職員間での評価の意義の把握と、活用されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は3カ月に1度を予定していたが老人会、民生委員、町内会会長、消防団、近所などに声かけして、参加をよびかけているが、高齢であったり、参加していただけていない。ホームの5周年記念の行事を地域の方に案内は出したが参加はされていない。</p>		<p>地域の老人会、民生委員、町内会長、消防団、には運営推進会議への参加を更に呼びかけ、定期的開催できるよう、期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>名古屋市介護サービス事業者連絡研究会とも、月に1度やり取りを行い、状況の報告や相談などしている。また、業務上不明な点、困った点など、電話にて市には相談している。また、クリスマスにはサンタクロースの派遣を市に依頼をした。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>週1回程度の家族の訪問が多く、少ない方で月1回、2~3カ月に1回ある。家族が遠方の方については、月1回程度、行事案内、報告、写真、近況報告などを詳細にわたり送付している。訪問される家族には直接近況など説明している。家族への参加を依頼する行事には電話か、直接話しをして参加を呼びかけている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はないが、こまめに意見、要望を聴取している。家族の訪問時には職員に直接要望を伝えてくれている。職員間での情報の共有のため、連絡帳にて、各自把握している。意見、不満、苦情等、発生したら、直ちに管理者に報告し、家族に説明、理解してもらえよう配慮している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は1度あった。止むを得ない離職は防ぎようがないが、事業所として、入居者にダメージを受けないよう配慮している。一昨年より、職員のチームワークもできてきている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	名古屋市介護サービス事業者連絡研究会主催の研修、高坂会主催の研修、同区のグループホーム協議会主催の研修にパート職員も含め月1回参加している。参加者は月1回カンファレンスにて報告し情報を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市のグループホーム協議会に参加している。管理者、職員、パート職員を含め月に1回区内のグループホームが集まり、勉強会や交流会を開催している。月1回の職員の相互訪問があり、サービスの質を向上させるためにも役立っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学はもちろんのこと、2~3日体験入居をしてから入居している。入居者の中には、デイサービスセンターを利用している方もいる。入居前のアセスメントでは本人の自宅または、入院されている病院などに訪問し、本人の生活歴、家族構成、居住環境等が事細かく聴取され視認し、職員に周知される。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、洗濯物干し、たたみ、配膳、下膳など担当する入居者がいる。6カ月に1度ダイニングテーブルの席替えをしたりして、日々の雑談の中から入居者本人のできること、楽しみにしていたことなどを聞き出して、レクリエーションなど、行事に組み込んでいる。職員に「おつかれさま」と気遣ってくれたり、ねぎらいの言葉をかけてくれ、励まされお互いを支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者との会話からの聴取はもとより、カンファレンスを月1回開催して、入居者の意向に沿えるよう努力している。また、自分の思いを出せない入居者には日々の生活の中で感じとるよう配慮している。各入居者の様子を6カ月かけて書きとめ、各入居者の担当者にて介護計画に反映させている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者には担当者がおり、6カ月間観察をしサービス援助内容票を提出し、カンファレンスで職員全員で検討している。再度、担当者が確認し必要があれば変更、問題がなければ計画作成担当者がケアプランを完成させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者毎に生活記録の中に実施事項を記載し、入居者の状況を把握している。問題点や課題を明らかにしており、モニタリングを行い入居者の状態に変化が見られた場合は随時介護計画の見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、近くの内科医と契約をし隔週にて訪問診療を行っている。また、看護師は職員として配置されており、1週間に1度健康管理を行なっている。入居者が入院した時は医療機関と情報提供を行い、早期退院に向けた支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医として内科医、歯科医の訪問診療が月に2回ある。毎日の体調管理はホームの看護師と共に行っている。急を要する時は電話相談も可能であり、24時間対応で適切な医療の体制支援が整っている。また、入居者や家族の希望によりホームの協力医以外の受診の支援も行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの重度化指針として、常時医療、看護を必要としない場合に限り看取りを行なうこととしている。入居者、家族と話し合いを持ち状況を確認しながら、その時に応じ書面にて改めて契約書を交わし対応方針を決めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については、入社時に説明し誓約書を取り徹底を図っている。職員は日々入居者と接する際、言葉かけに注意し、プライドを傷つけないように務めている。介護記録は入居者の目に触れないように介護室で記入をしている。終了した記録等の保管は鍵をかけ事務所で管理をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のほとんどは、日中はフロアで過ごし、本を読んだり、ゲームをしたり計算ドリルを行なう人もいる。入居者のペースに合わせて決して無理強いせず、能力の把握や一人ひとりの力が引き出せるよう支援している。誕生会には職員がケーキを焼き、プレゼントを渡し入居者が主役となる場を工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や状態に応じて調理、盛り付け、配膳等の手伝いを行なっている。職員は調理の仕方や味付けなど、入居者に教えてもらい支援し、一緒に食事をしている。入居者の希望により毎月、ちらし寿司や鰻丼等の日があり、食事を楽しむ取り組みをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室、脱衣室にはそれぞれエアコンが設置され、温度調節をしている。広い浴室は2~3名入浴できるが、必ず1対1でゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。入浴を拒まれる入居者には声かけやタイミングをみて、足浴など工夫した支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できることから、やれるところまで入居者の状態に合わせて食事の用意や片付け、洗濯物たたみなどをお願いしている。ベランダで植物を育てている入居者もいる。塗り絵、習字、スケッチ画など職員と一緒に進められ作品は掲示されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園の散歩、隣の観音寺へのお参りは日課となっている。喫茶店、回転寿司等の外食にも出かけている。季節に応じて、花見やピクニック等の遠出もしている。希望があれば他の入居者を誘い散歩に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階は同法人のデイサービスセンターがあり、施錠はされていない。グループホームは2、3階にあり玄関は常に施錠されている。2年程前に2件続いた事故があったことや、帰宅願望の強い入居者がいることから安全のため施錠している。		入居者の安全を確保しつつ、日中時間帯を区切るなど、安全面に配慮しながら、少しでも開錠できるよう取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回訓練を行なっている。1回は消防署に来てもらい消火器、A D Eの使い方などを学んだ。各階に防災頭巾が準備され、マニュアルも整備されている。備蓄品については用意できる物から準備を進めていく予定をしている。		地域の消防団の協力を得て地域の人々に呼びかけをして共同の訓練の実施に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者(栄養士)が食材の買い物に行き、献立を立てる。食事制限のある方には盛る形で工夫をしている。毎日の摂取量は、生活記録に記入し定期的に体重測定を行い状態を把握している。水分は1日1,000cc~1,500ccを目安に摂取し、また、食事に根菜類の摂取に心がけ便秘薬に頼らない支援がされている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温、湿度の状況によりエアコンで調節し、居室や共用空間の温度管理をしている。ホールには、季節感がある作品が掲示されている。共用スペースは広く畳が埋め込んだ場所には、ゆったりとできるソファが置かれている。エレベーター前のホールや廊下に椅子が置いてあり、日向ぼっこしたり一休みしたり入居者は利用している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、住所と名前が書いてあり、自分で作った作品を飾り、入居者の良い目印となっている。それぞれ、自宅で使い馴れたテレビ、椅子、タンスなど生活用品が持ち込まれている。手作りの作品やぬいぐるみ等を飾り、本人のプライベート空間として安心して過ごせる居室作りとなっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。